

岩手・宮城内陸地震の被災現場で市民災害研修を開催！！

～災害現場の復旧状況を公開し防災意識の向上～

一関総合支局土木部

県と一関市では、平成21年10月10日、11日、12日の3日間、岩手・宮城内陸地震で被災した国道342号真湯～須川間(約15km)において一般市民を対象とした市民災害研修を開催しました。本研修は、大規模に被災した災害現場と復旧状況を直接肌で感じてもらうことにより、防災意識の向上を図ることを目的として開催したもので、3日間で75人の市民が参加しました。

研修では、昨年の地震発生時から通行止めとなっている国道342号須川～真湯間をバスで案内し、大規模崩落で道路が寸断した「茂庭沢」、「オーレン」、「烏帽子の2」、「須川の6」の4箇所をバスから降りて、災害の規模や復旧工事の進捗状況などの説明を行いました。

参加者は、大規模に崩落した斜面などを目の前にして自然災害の恐ろしさを実感するとともに、工事が相当進んでいることに驚いた様子でした。

国道342号須川～真湯間は、11月中旬には本年度中に実施予定の災害復旧工事が終了する見込みであり、**平成22年6月に全面通行止めを解除する予定**です。



- | | |
|--------------------|---|
| 道路災害復旧 (21箇所 関連含む) | — |
| 橋梁災害復旧 (3箇所) | ▲ |
| 1.5車線整備箇所 (23箇所) | — |
| 大規模崩落箇所 (4箇所) | ● |

